

あのカントに再び挑んでみよう、

——人としての迷い、ためらいを味わい尽くす

てっぺいにカント

その一 コペルニクスの転回の全貌
中島義道

2024年5月24日刊行予定 四六判・並製 256頁 本体定価2600円 ISBN978-4-910154-54-1 C0010

そうか、あのカントも一人の挑戦者であったに違いない。挑み、逡巡し、いくどもやり直す。未知なる思考の世界と、そこにおける人間の位置を示す指標を立てるために。

『純粹理性批判』、再びこの思考の金字塔に挑んでみよう。

読者とともに行きつ戻りつ、文に編みこまれた思考の息づかいに耳を澄ます。

それは、いまを生きる、私たちの足もとを照らす探照灯の誕生秘話であった。

【続刊】 てっぺいにカント その二 「純粹理性」の舞台裏 7月刊予定

【姉妹篇・既刊】 てっぺいにキルケゴール その一～その三 『絶望ってなんだ』

『私が私であることの深淵に』『本気ですまなくということ』（ぶねうま舎）

中島義道（なかじま・よしみち）

1946年生まれ。東京大学法学部卒。同大学院人文科学研究科修士課程修了。ウィーン大学基礎総合学部修了（哲学博士）。電気通信大学教授を経て、現在は哲学塾主宰。著書に、『カントの時間構成の理論』（理想社。のち改題『カントの時間論』講談社学術文庫）、『モラリストとしてのカント1』（北樹出版。のち改題『カントの人間学』講談社現代新書）、『カントの自我論』（日本評論社。のち岩波現代文庫）、『悪について』（岩波新書）、『悪への自由——カント倫理学の深層文法』（勁草書房。のち改題『カントの「悪」論』講談社学術文庫）、『生き生きした過去——大森荘蔵の時間論 その批判的解説』（河出書房新社）、『不在の哲学』（ちくま学芸文庫）、『時間と死——不在と無のあいだで』（ぶねうま舎）ほか。

目次

- 序論 死ぬまで真理に焦がれ続ける者
- 第一章 危険な問い
- 第二章 「主観的な」形而上学の歴史
- 第三章 批判という方法
- 第四章 カントを読むということ
- 第五章 コペルニクスの転回

締め切り 5月8日

Fax. 03-5228-5843

ぶ
ね
う
ま
舎

てっぺいにカント

その一 コペルニクスの転回の全貌

46判・256頁 本体定価2600円

ISBN978-4-910154-54-1 C0010

貴店印

冊

新刊委託